

蒼穹NEWS No.4

七大戦総括号

平成 15 年 8 月 6 日発行



4 × 4 0 0 m R表彰 1走花谷(右前) 2走水谷(右後) 3走堀江(左前) 4走村地(左後)

~~~~ 目 次 ~~~~

1. 主 将 挨 拶
2. 七 大 戦 総 合 成 績
3. 七 大 戦 詳 細
4. 七 大 戦 記 録

主将挨拶

名古屋で行われた七大戦、結果は惜しくも 2 位で連覇はなりませんでした。怪我で欠場したものや実力を出せなかったものが多かったのが悔やまれます。ですがその課題とともに確実に未来への希望の見える試合でもありました。優勝した佐藤章徳や佐藤真一郎を始め四回生たちはよく雰囲気盛り上げ、新たに幹部学年となる三回生では西村や福山はすでに絶対的なエースとなりました。二回生も実力をつけ徐々に多く得点を稼ぐようになり、そして短距離、中距離や投擲では一回生も活躍しました。現時点での出来る全てを。京大陸上部は立派に戦いました。その結果としての二位。満足などしませんが、胸を張りたいと思います。

そしてこの悔しさを胸にまずは秋の東大戦へむけ、再び集中していきます。OB の皆様方にも今度こそ勝利をお届けしたいと思います。

どうぞ今後も変わらぬご支援・ご声援のほど、よろしくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部主将

寺田 智

第 54 回国立七大学対校陸上競技大会 対校得点

1 位	大阪大学	81 点	(T 25 点 F 56 点)
2 位	京都大学	73 点	(T 46 点 F 27 点)
3 位	名古屋大学	72.5 点	(T 53 点 F 19.5 点)
4 位	東京大学	57.5 点	(T 27 点 F 30.5 点)
5 位	東北大学	57 点	(T 40 点 F 17 点)
6 位	北海道大学	31 点	(T 25 点 F 6 点)
7 位	九州大学	27 点	(T 15 点 F 12 点)

第 14 回国立七大学対校女子陸上競技大会 対校得点

1 位	名古屋大学	35 点	(T 18 点 F 17 点)
2 位	東京大学	23 点	(T 16 点 F 7 点)
3 位	東北大学	9 点	(T 8 点 F 1 点)
4 位	北海道大学	5 点	(T 1 点 F 4 点)
5 位	京都大学	4 点	(T 3 点 F 1 点)
5 位	九州大学	4 点	(T 4 点 F 0 点)
7 位	大阪大学	0 点	(T 0 点 F 0 点)

七大戦詳細

3000mSC決勝

1位 佐藤 章徳(4) 9.14.77
12位 大崎 友数(3) 10.09.22

スタートの号砲とともに佐藤が先頭に立ち、縦長の集団でレースが展開する。大崎は集団の最後尾でレースを進めていく。2周目、3周目と周回を重ねるにつれ、佐藤は後続との差を広げ、2分58秒で1000mを通過すると、あとは独走。貴祿の走りを見せつけ、危なげなく優勝を手にした。

大崎は最後尾から1人ずつ落ちてくる選手を拾っていくレースになった。しかし、後半になると自信のペースもズルズルと落ちていき、納得いくレースはできなかった。(山田修裕)

400m予選 (3組2着+2)

1組6着 西村 広展(4) 53.10
2組5着 藤井 健輔(3) 52.60
3組3着 村地 優樹(3) 50.61 通過

400mには、村地、西村、藤井健輔の3人が出場した。

1組目の西村は、前半から積極的に飛ばしていき、レースを引っ張ったが、300m付近から失速してしまった。最後まで粘りを見せた。

2組目の藤井は、スタート直後からピッチを上げていき、200m付近ではトップ争いに加わっていたが、直線に入りスタミナ不足から失速してしまった。

3組目、エース村地は序盤ピッチを抑え、後半勝負の展開に持ち込んだ。最終コーナーを周り、持ち味の後半の伸びが見られるかと思われたが、今ひとつであった。しかし、何とか決勝に駒を進めた。(涌井健策)



3000mSC 佐藤章徳

110mH予選 (3組2着+2)

1組4着 尾崎 禎亮(3) 15.63(-1.3) 通過
2組1着 佐藤真一郎(4) 15.02(-0.3) 通過
3組4着 白方 朗史(1) 16.00(-0.1) CB

1組は尾崎。スタートから横一線で、5台目あたりでも僅差の3番目につける。そして混戦のまま4着でゴールした。

2組は佐藤が出場。スタートから一人抜け出し、その後もリードを広げた。終始安定した走りを見せて1着でフィニッシュ。

3組は白方が出場。1台目を超えたあたりでは、3番手につけて、先頭になんとかついていくが、徐々に離され、4着でゴールした。(瀬々井巖士)

円盤投決勝

6位 河村 和彦(4) 31m97
10位 吉崎 敬祐(1) 27m81 PB
15位 森川 陽介(1) 24m22 PB

河村[31m97-31m38-x-x-x-x]

吉崎[27m81-27m26-27m46]

森川[24m22-24m10-21m60]

吉崎は予選の3投で体の開く悪いくせが出てしまい、本来の実力を発揮することが出来ずに予選落ちに終わった。今回初めて円盤の試合に出場した森川であったが、やはり投げが力づくで、すべての投擲において円盤が立ってしまい、記録を伸ばすことが出来ずに予選落ちした。このところ、調子を上げてきていた河村は、まずまずの投擲で、予選で32m台を投げ、予定通りに決勝に進出したが、決勝ではターンで回りきれず3投ともファウルに終わり、最終的に6位に終わった。(田中聡一)

女子100m予選 (2組3着+2)

1組3着 海野 益代(1) 13.92(+0.6) 通過PB
2組5着 北川 佳奈(3) 14.12(-1.1) 通過

徐々に気温が上がる中、まずは1組目に海野が登場。スタートから前の2人に負けずに飛び出し、中盤も硬くならず走り抜け、順当に決勝進出を決めた。フライングがあったにもかかわらず、大学初レースにしては落ち着いた走りを見せた。

2組目の北川は、周りが速いために、苦戦するかと思われたが、スタートから自分の走りをする事ができた。後半やや失速したが、復調を思わせる、力強い走りをみせ、決勝進出を決めた。(滝上伸子)

100m予選 (3組2着+2)

- 1組3着 北垣 卓(3) 11.43(-2.7)
2組5着 花谷 直人(4) 11.21(-0.3)
3組1着 松井 延行(2) 11.25(-1.5) 通過

1組に北垣、2組に花谷、3組に松井が出場。

1組は横一線のスタートとなったが、すぐに名古屋大の後藤が抜け出し、北垣は3位につける。得意の後半を生かし、一時は2位の選手に並んだが、最後は及ばず、そのまま3位でゴールした。

2組の花谷は、スタートで飛び出しを見せるも、腰の影響もあってか、後半3人にかわされ、4位でゴールした。

3組の松井は、得意のスタートで抜け出すと、他の追従を許さず、ゴール前では流す余裕を見せ、1位でゴールした。この結果、松井だけが決勝進出となった。(石田真大)

1500m決勝

- 1位 西村 好康(3) 3.56.38
7位 佐藤 章徳(4) 4.03.75
16位 渡 寛法(2) 4.19.14

レースはスタートからハイペースで進み、先頭は1周目を61秒で通過した。西村は先頭のすぐ後ろにつき、佐藤、渡は中盤に位置する。後半、先頭に立った橘(東北大 3)と、西村の一騎打ちとなった。西村は最後の100mで橘を振り切り、3分56秒台の好タイムで優勝、佐藤は3000mSCの後のレースながら、自己ベストに近いタイムで走る好走を見せたが、惜しくも7位。渡は前半良く粘ったものの、終盤力尽き、自己ベストの更新はならなかった。(内田翔)



1500m 西村好康

400m決勝

- 4位 村地 優樹(3) 50.04

決勝に進出した村地は、レースの序盤、2レーンということもあり、ほかのレーンの選手を見ながらの落ち着いたレース展開を見せた。200mあたりから徐々に先頭との差を詰めていき、直線でのラスト勝負に持ち込んだ。得意の後半での勝負であったが、体には本来のキレがなく、4位でゴールした。本人は当然、周りも納得のいく結果ではないが、確実に得点をし、エースの役割を果たした。(涌井健策)

110mH決勝 (-1.4)

- 1位 佐藤真一郎(4) 14.95

- 8位 尾崎 禎亮(3) 15.91

佐藤が4レーン、尾崎が8レーンで出場。スタートでは横一線だったが、2台目あたりから佐藤がトップに立つ。ハードルを倒すものの、徐々にリードを広げていく。中盤、後半も危なげない走りそのままゴールし、優勝した。佐藤にとっては、これが七大戦での初得点となった。

尾崎は、1台目のハードルで引っ掛けてしまい、スピードに乗れなかった。中盤でも少し離されてしまう。後半持ち直したものの、8着だった。(若山哲志)



100mH 佐藤真一郎

女子100m決勝 (-2.1)

7位 海野 益代(1) 14.19
8位 北川 佳奈(3) 14.20

決勝には、北川、海野の2人が出場。2人とも予選でまずまずの記録を出しており、更なる記録更新が望まれる。スタートは北川が飛び出す。ほかの6名はいずれも13秒前後の記録を持つため、得点は難しい。しかし、それに負けることはなく、2人とも安定した走りを見せた。海野は後半失速してしまっただけに見えたが、無難にまとめた。北川は苦手な後半もスムーズに走った。(滝上伸子)

100m決勝 (-2.3)

7位 松井 延行(2) 11.32

ただ一人決勝出場となった松井は、スタートで上手く飛び出し、1位と僅かな差の2位で中盤まで試合を進めていったが、後半80m付近で力が入り、ほかの選手に競り負け、結局7位に終わってしまった。得点が期待されただけに、残念な結果ではあったが、まだ機会があるので、是非来年の北海道大会では、表彰台を狙ってほしい。(石田真大)



100m 松井延行

棒高跳決勝

6位 垣畑 陽(3) 3m50
10位 平野 聖(3) 2m90
森 一(3) 記録なし

垣畑[2m90 -3m10 -3m30
-3m50×× -3m70×××]

平野[2m70 -2m90× -3m10×××]

森 [2m50×××]

練習のときから調子がいまいちだった森は、惜しくも2m50が跳べず無念の記録なしとなってしまった。

平野は練習のときに自己ベストとなる3m00を跳んでおり、調子はよかったが、3m10で惜しくも失敗してしまった。

走幅跳、やり投と多種目出場の垣畑は、あわただしい中、集中力をしっかり保っていた。自己ベストを30cmも更新する3m50を3回目に跳び、何とか6位をもぎ取った。垣畑の勝負強さが光る試合だった。(三好達也)

走幅跳決勝

10位 垣畑 陽(3) 6m60 (+0.7) PB

12位 高橋 孝治(1) 6m36 (+1.1) PB

15位 森 一(3) 6m14 (+1.3)

垣畑[6m32-6m60- -]

高橋[× -6m35-6m36]

森 [5m67-6m14-5m99]

走幅跳は主力の杉本昌大を故障で欠いての3選手のエントリーである。1回生の高橋は、1本目は5cmほどファウルではあったが、6m中盤の飛距離で、ベスト8ラインがそのあたりになりそうなか、期待がかかった。しかし、2本目以降助走が伸びず、不本意な結果に終わった。

棒高跳びから帰った森は、助走練習からどこか力無い雰囲気であった。跳躍自体というよりは、助走の力の無さがそのまま記録に反映されたような跳躍で、淡々と3回の試技を終えてしまった。

垣畑は2本目に自己記録となる6m60を跳んだ。かかとの調子と相談してここで試技をやめ、棒高跳びに試技に向かった。結果としてベスト8には数cm届かず、走幅跳は無得点に終わった。(粟村聡資)



砲丸投 竹村顕大朗

砲丸投決勝

- 3位 竹村顕大朗(3) 12m01
 5位 森川 陽介(1) 11m27 PB
 6位 河村 和彦(4) 10m84

竹村[11m76-x-11m70-x-12m01-x]

森川[9m76-10m66-11m01-10m64-10m34-11m27]

河村[10m55-10m66-10m45-10m30-10m84-10m77]

森川は公式練習で 11m 近くを安定して投げていて、少し体を早く開いてしまうくせが出てしまっていたが、砲丸を強く押せていたため、6 投目には予想を上回るいい記録が出た。河村は、ひざのケガのために練習ができていなかったということを感じさせない投げが出来ていて、5 投目に 6 位の選手の記録を超える力投を見せ、1 点をもぎ取った。竹村は練習から調子は良くなさそうで、十分に砲丸を押せていなかったが、5 投目に 4 位につけていた上田(阪大 1)に逆転されると、すぐに振り返り、京大の砲丸投げのエースとしての意地を見せた。(木村克也)

女子800m決勝

- 5位 山下 里絵(3) 2.34.52 PB
 7位 岩瀬 祥子(3) 2.35.31 PB

涼しい風が吹き、気温も 28 に下がったなかのスタートとなった。2 レーンの山下は、スタートから積極的な走りを見せた。中盤も淡々とした安定な走り、オープンペースを刻んだ。ラストは、腕のふりが小さく、伸びがなかったが、ベストを更新した。一方、7 レーンの岩瀬は、やや抑えてのスタート。中盤、上下のバランスがずれ、大きな動きとなり、ペースもやや落ちたが、ラストでは粘りを見せ、前との差を縮めた。(溜宣子)

800m予選 (3組 2着+2)

- 1組 1着 前川 真彦(1) 1.59.89 通過
 2組 3着 岡本 英也(1) 1.57.74 通過
 3組 4着 前田 昌也(2) 1.59.22

1 組目には、1 回生の前川が出場した。前川ははじめから先頭でレースを引っ張り、最後までトップをキープし続けた。最後は 3 位以下の選手を大きく引き離し、1 回生ながら余裕のレースであった。2 組目で走ったのは同じく 1 回生の岡本。岡本は 300m でトップに立ち、果敢にレースを引っ張った。600m 付近で集団に抜かれ、ポケットされる形になったが、ラストで追い上げ、3 着となった。3 組目の前田は故障からの回復が完全とは言えず、心配されたが、一人飛び出した東大の選手を追う 2 位集団を先頭で引っ張った。途中、他の選手の追い上げにあい、激しいラストでの勝負を演じたが、4 位に終わり、惜しくも決勝進出を逃した。(桑原昇)



800m 前川真彦(上) 岡本英也(下)

400mH予選 (3組2着+2)

- 1組4着 西村 広展(4) 61.77
2組5着 藤森真一郎(4) 60.09
3組1着 水谷 太郎(1) 54.76 通過

400mH予選は、1組に西村、2組に藤森、3組に水谷が出場。西村は今期に入って好調で、フラットレースのベストも大幅に縮めており、期待がかかったが、更新には至らなかった。藤森は練習に300mHを取り入れるなどして、歩数の調整を図っており、前半かなりスピードに乗った感があったが、後半は乳酸疲労に押された形になった。水谷は前半からテンポよくハードリングをこなし、後半はかなり余裕を持って走り、組トップで決勝進出を果たした。(中尾太郎)

200m予選 (3組2着+2)

- 1組4着 北垣 卓(3) 22.81(-0.9) 通過
2組7着 瀬々井巖士(2) 23.60(-1.7)
3組4着 堀江 匠(2) 23.03(-0.4)

200m予選は、北垣、瀬々井、堀江が出場した。

1組目の北垣は、スタートはまずまずでコーナーを出てもスピードを落とすことなく3位でゴールした。

2組には、前日に急遽出場の決まった瀬々井。スタート直後は抑え気味ではあったものの、コーナー出口付近で加速したが、力及ばず、7位でゴールした。

3組の堀江は、好スタートでそのまま加速もよく、コーナー出口付近ではトップにたつ。しかしラスト20mで、失速し、4位でゴールした。

全体的に向かい風が吹いており、選手にとっては、走りにくいレースであったと思われる。(浜田良太)

女子3000m決勝

- 4位 田端亜衣子(4) 10.48.30 PB
10位 中村奈都子(3) 12.09.80

少し涼しくなり、走りやすい気候だった。田端はゆったりとスタートを切り、大きなストライドで安定した走りを見せる。後半は前の選手に根気強く食いつき、2人抜かした後、ラスト1周で大きく加速し、自己ベストを大きく更新し、得点をもぎ取った。

一方、中村は北大の選手と競り合いを続けたが、後半は少し疲労が見られ、足が重くなっていた。しかし、故障明けすぐのレースにもかかわらず、腕の振りは最後まで衰えることがなく、粘り強いレースだった。(細尾萌子)



女子3000m 田端亜衣子

女子走幅跳決勝

- 4位 北川 佳奈(3) 4m88 (+1.8)

北川[4m74-4m88-4m79- x -4m82- x]

100mの直後となる北川だが、あまり疲れを感じさせない。時間がぎりぎりになり、練習を1本しか出来ないというハプニングもあったが、助走のまとまりはよかった。足は完全に合っており、調整のよさを感じさせた。試技の間隔が非常に狭く、集中しにくい環境の中、ベスト8に進出して仕儀を重ねる。さすがに後半は疲れも見え、動きが硬くなったが、安定した記録を出し続ける。結局、2本目に出した4m88で4位となった。安定していたとはいえ、農Gで5m以上跳んでいたため、悔しさの残る試技ではあった。更なる飛躍を願いたい。(滝上伸子)

やり投決勝

- 4位 松田 俊(2) 50m29 CB

- 8位 垣畑 陽(3) 45m83

- 13位 真鍋 文朗(3) 31m34

松田[48m41- x -49m50-49m05-49m46-50m29]

垣畑[38m59-45m74-45m83-42m89-40m74- -]

真鍋[29m04- x -31m34]

今期不調だった松田は1投目から今期ベストを投げ、3投目も記録を伸ばし、予選を4位で通過した。決勝でも49m台をコンスタントに投げ、6投目に自己ベストに迫る50m29を投げた。真鍋は投げるときに右ひじが下がっていて、31m台で予選落ちに終わってしまった。垣畑は最近好調であったが、フォームを気にしすぎてしまい、がむしゃらさが足りなかった。決勝は記録が伸びず、45m83で、8位に終わった。(森川陽介)

走高跳決勝

7位 渡邊 浩一(4) 1m90
9位 松久 佳弘(1) 1m75
横矢龍之介(2) 棄権

渡邊[1m80 -1m85× -1m90 -1m93×××]
松久[1m65 -1m70 -1m75×× -1m80×××]

横矢はけがでベストを尽くせない状態だったので、三段跳に集中するため棄権した。

この大会が大学デビュー戦となる松久は、試合前にも体が動くと言っていたとおり、1m65、1m70と危なげなくクリアした。自己記録に迫る1m75も3回目にクリアした。今後が期待できる跳躍となった。

最後の七大戦となる渡邊は、1m80から登場し、選手が減っていく中、1m85、1m90とクリアした。惜しくも1m93は跳びきれなかったが、素晴らしい跳躍を見せてくれた。(高橋孝治)

4×100mR決勝

5位 43.77

[松井延行 北垣卓 花谷直人 米谷健司]

京大は6レーンで、松井、北垣、花谷、米谷のオーダーで臨んだ。スタートと同時に松井が、ダントツで飛び出る。バトンパスはやや詰まりながらも、2走の北垣につながる。バトンを受けた北垣は、50m程まで、軽快にスピードにのるが、そこで肉離れという不運なアクシデントに見舞われる。一瞬誰もがそこで終わったと思ったが、北垣は足を引きずりながらも、根性で花谷につないだ。一時はトップだったが、3走に渡る時点では、最下位になっていた。しかし、北垣の気持ちにこたえるためにも花谷は諦めず、前の走者を必死に追った。そして最後に米谷は、各大学最速の走者が顔をそろえるアンカーに囲まれながら、順位を落とすことなく、5位でゴールした。(赤井誠一)

400mH決勝

1位 水谷 太郎(1) 52.94 京大新

400mH決勝に進出したのは、水谷。本人も「予選、決勝が同日中に行われる方が予選の反省点を活かせる。」と語るように、予選で合わなかったインターバルの歩数を調整して決勝に挑んだ。レースは前半から快調にハードリングをこなしつつ、スピードに乗る。最後は昨年の覇者、横尾(北大2)にも競り勝って、見事に52秒台のタイムで、1回生ながら優勝を果たした。彼の自己ベストは51秒66であり、今後に大きな期待がかかる。(中尾太郎)

女子砲丸投決勝

5位 北川 佳奈(3) 7m43 CB

北川[6m65-6m47-5m84-7m43-7m03-6m75]

100m2本、走幅跳6本の後という過酷な日程での出場となった北川。上3人のもち記録が9m台と抜けているため、一発引っ掛けて4位を狙いたかったところ。

3投目までは砲丸に力負けしてしまい、記録が伸びてこない。しかし試技順の変わった4投目、これまでよりも力がうまく砲丸に伝わり、7m43を記録。続く5、6投目にも期待がかかったが、上方向に体が浮いてしまい、5位に終わった。練習次第では来年上位参入も夢ではない。(岩瀬祥子)

800m決勝

2位 前川 真彦(1) 1.58.03

6位 岡本 英也(1) 1.58.80

800m決勝には、1回生の前川と岡本が出場した。序盤からスローペースとなったが、300mからレースを先導したのは、スタート時は最後尾についていた岡本であった。600mまではスローペースのまま進行したが、600mすぎに、前川がペースアップし、均衡を破った。前川はあわや優勝かという勢いで果敢に攻めたが、ラスト50m付近でとらえられ、2位に終わった。岡本も後半抜かれはしたものの、6位に食い込んだ。(桑原昇)

三段跳決勝

1位 福山 大典(3) 15m38 (+1.3) PB

8位 佐藤真一郎(4) 13m80 (+1.2) PB

9位 横矢龍之介(2) 13m60 (-0.2)

福山[14m01-14m66-15m08-15m34- -15m38]

佐藤[13m30-13m66-×-13m73-×-13m80]

横矢[×-13m60-11m69]

今大会、三段跳は、ケガにより調整不足であった横矢が本調子でなく、惜しくもベスト8入りを逃したものの、福山、佐藤が絶好調であり、大いにスタンドを盛り上げてくれた。

佐藤はファウルを1回挟んで4回連続の自己ベスト更新をやったのけた。フォームは少しぎこちなかったが、ダイナミックな跳躍を見せてくれた。

福山は前半から徐々に調子を上げていき、3回目の跳躍でついに15mの大台に乗せた。その勢いはとどまることを知らず、4、5回目にはさらに自己ベストを更新し、見事に2連覇を果たした。(北島明文)



ハンマー投 河村和彦

ハンマー投決勝

- 2位 河村 和彦(4) 39m52
 3位 木村 克也(2) 35m88 PB
 11位 田中 聡一(1) 23m63 PB

河村[x-38m89-x-x-39m52-38m99]

木村[34m71-34m55-35m48-35m88-34m15-35m59]

田中[23m60-23m63-22m33]

強い日差しの中、投擲最終競技であるハンマー投げが行われた。河村は円盤、砲丸とこれまで2種目に出場し、疲れが溜まっていたのか、3投目まで38m89、ファールも2回と、少々物足りない感じながら、3投目まで1位。木村は3投目までに35m48を出して3位。田中は残念ながら8位までには入れなかったものの、初の対抗戦において健闘を見せた。5投目に、2番手だった小笠原(東大4)が40mを超えて1位に立ち、河村も記録を伸ばしたものの、惜しくも届かず、2位となった。木村はさらに記録を伸ばし、自己ベストで3位入賞と、堂々の結果であった。結果的には事前のランキングを塗り替え、9点獲得、と良い結果になった。(竹村顕大朗)

5000m決勝

- 2位 西村 好康(3) 15.08.93
 9位 佐藤 章徳(4) 15.36.67
 13位 宮木 貴志(2) 15.43.94 PB

スタート直後、西村と橘(東北大3)が飛び出したが、すぐ後方集団に吸収され、前半はスローペースの大集団でレースが展開した。佐藤は集団の後方、宮木は中ほどにつけてレースを進める。3000m手前で橘がペースをあげると、西村がそれを追い、3位以下との差が開き始めた。先頭争いは2人の一騎打ちとなり、ラスト1周で西村が前に出たが、残り150mで再び抜き返され、惜しくも2位となった。佐藤、宮木の二人は、集団から離された後もよく粘ったが、9位、13位に終わり、残念ながら得点はできなかった。(福原徹彦)

女子4×100mR決勝

3位 55.47

[海野益代 滝上伸子 北川佳奈 山下里絵]

女子最終種目のリレーは4チームでのレースとなった。1走の海野はまずまずのスタートをする。他大学にやや差をあげられたものの、1回生ながら力走した。1-2走でのバトンパスが上手くいかず、他大学との差が一時は大きく開いたが、2走滝上、3走北川の好走で、4走の山下にバトンが渡る時点で、北大に並んだ。山下の好走に加え、北大がバトンパスに失敗したため、後方に大きく差をつけて3位でゴールした。(大本祐子)

4×400mR決勝

1位 3.20.69

[花谷直人 水谷太郎 堀江匠 村地優樹]

花谷、水谷、堀江、村地というオーダーでマイルリレーは行われた。1走の花谷は、序盤でスピードを抑えつつも、200m付近でスピードを上げて、トップで水谷にバトンをつなぐ。水谷は400mH優勝の勢いそのままにスピードにのり、ラスト100mでも粘りの走りを見せ、差を広げて3走の堀江にバトンパスをする。堀江は、持ち前のスピードを生かし、前半から積極的な走りで、トップを死守し、アンカー村地にバトンを託す。村地は、すぐ後ろを名古屋大の後藤につかれながらも、リラックスして第3コーナーをまわった。後藤の追い上げからも逃げ切り、見事優勝した。スタンドからの大声援に後押しされたような見事な4人の走りであった。(涌井健策)



4×400mR 1走花谷 2走水谷

七大戦男子記録

1000m (-2.3)

1	後藤 賢二	名古屋 4	10.91
2	米田 武史	東京 2	11.20
3	渡部 佑一	東北 3	11.23
4	谷 篤	名古屋 2	11.25
5	荻山 宜樹	大阪 3	11.27
6	徳本 和訓	九州 4	11.30

2000m (-0.9)

1	後藤 賢二	名古屋 4	22.00
2	谷 篤	名古屋 2	22.49
3	渡部 佑一	東北 3	22.58
4	吉川 英寿	北海道 4	22.66
5	式場 健太	東京 3	22.67
6	徳本 和訓	九州 4	22.67

4000m

1	可知 晃徳	名古屋 2	49.07
2	吉川 英俊	北海道 4	49.29
3	北川 達	大阪 2	49.53
4	村地 優樹	京都 3	50.04
5	堀内 壮太	東京 3	50.17
6	坂田 敦	九州 3	50.49

8000m

1	干場圭太郎	大阪 2	1.57.84
2	前川 真彦	京都 1	1.58.03
3	杉山 善春	北海道 4	1.58.09
4	石井 康雄	東京 4	1.58.19
5	河野 匠	北海道 2	1.58.64
6	岡本 英也	京都 1	1.58.80

15000m

1	西村 好康	京都 3	3.56.38
2	橋 明德	東北 3	3.56.73
3	今村 浩二	九州 2	3.58.91
4	新井 邦生	東京 1	4.01.65
5	森本 一広	名古屋 2	4.01.95
6	中村 高洋	名古屋 2	4.02.74

50000m

1	橋 明德	東北 3	15.05.17
2	西村 好康	京都 3	15.08.93
3	山根 聡	大阪 2	15.16.46
4	伊藤 潤一	名古屋 4	15.17.62
5	吉田 孝廣	九州 4	15.19.26
6	濱田 翔平	九州 2	15.23.71

110mH (-1.4)

1	佐藤真一郎	京都 4	14.95
2	土屋 貴史	東北 3	15.21
3	前里 優介	名古屋 2	15.21
4	五十嵐 哲	東北 4	15.28
5	佐々木 隆	東北 4	15.33
6	森田 敏広	名古屋 3	15.50

400mH

1	水谷 太郎	京都 1	52.94
2	横尾 泰宜	北海道 2	53.86
3	五十嵐 哲	東北 4	54.62
4	内山 善仁	北海道 1	54.83
5	柴崎 政俊	大阪 4	55.88
6	高倉 栄雄	東京 4	56.20

3000mSC

1	佐藤 章徳	京都 4	9.14.77
2	稲垣真太郎	名古屋 4	9.23.50
3	吉田 孝廣	九州 4	9.28.94
4	山根 聡	大阪 2	9.32.99
5	高橋 竜一	東京 4	9.34.35
6	森 直樹	九州 4	9.34.91

4x100mR

1	名古屋大学	41.95
2	東京大学	42.21
3	東北大学	42.33
4	大阪大学	42.65
5	京都大学	43.77
6	北海道大学	44.07

4x400mR

1	京都大学	3.20.69
2	名古屋大学	3.21.32
3	東京大学	3.22.07
4	東北大学	3.23.64
5	北海道大学	3.24.03
6	大阪大学	3.24.93

走高跳

1	真鍋 周平	大阪 3	2m10
2	真鍋 亨平	大阪 1	2m02
3	西川 漠	東北 2	1m99
4	田中 啓	東京 3	1m93
5	森田 敏広	名古屋 3	1m93
5	村口 和人	東京 4	1m93

棒高跳

1	細川 尊史	大阪 4	5m03
2	森田 敏広	名古屋 3	4m30
3	徳多 正行	東北 4	4m30
4	端浦 雅人	名古屋 3	4m10
5	島田 俊雄	東京 4	3m50
6	垣畑 陽	京都 3	3m50

走幅跳

1	藤田 靖浩	東京 3	7m46
2	安積 高靖	大阪 4	7m42
3	福田 真大	名古屋 3	6m91
4	吉岡 和夫	東京 3	6m82
5	前原 宏明	大阪 4	6m76
6	高橋 英美	東北 4	6m73

三段跳

1	福山 大典	京都 3	15m38
2	藤田 靖浩	東京 3	14m89
3	安積 高靖	大阪 4	14m56
4	鈴木 泰伸	名古屋 3	14m18
5	高橋 英美	東北 4	14m13
6	福田 真大	名古屋 3	13m98

砲丸投

1	上田 泰弘	九州 2	13m65
2	尾杉 友浩	大阪 4	13m33
3	竹村 顕大朗	京都 3	12m01
4	上田 雄義	大阪 1	11m83
5	森川 陽介	京都 1	11m27
6	河村 和彦	京都 4	10m84

円盤投

1	尾杉 友浩	大阪 4	36m92
2	仲野 大地	北海道 4	36m27
3	島田 俊雄	東京 4	32m66
4	上田 雄義	大阪 1	32m57
5	飛田 雄一	東北 2	32m33
6	河村 和彦	京都 4	31m97

ハンマー投

1	小笠原義之	東京 4	40m54
2	河村 和彦	京都 4	39m52
3	木村 克也	京都 2	35m88
4	今野 陽介	東北 4	33m41
5	尾杉 友浩	大阪 4	32m44
6	飛田 雄一	東北 2	30m05

やり投

1	下田 広己	九州 1	57m97
2	上田 雄義	大阪 1	57m42
3	作本 和秀	大阪 3	54m38
4	松田 俊	京都 2	50m29
5	鈴木 基史	名古屋 3	49m50
6	持田 翼	北海道 2	47m07

杉本明洋 アジア選手権へ！

今年7月の日本インカレ 10000m 競歩において、39分59秒82で優勝した杉本明洋(4)が、9月20日から23日にマニラ(フィリピン)で行われる、第15回アジア陸上競技選手権大会の日本代表に選出された。杉本は20km競歩に出場する。



蒼穹ニュース 平成15年度 第4号

平成15年8月6日 発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部

編集者：宇部達・瀬々井巖士・渡寛法（副務）

特別協力：森一・田中齊太郎（学連員）・滝上伸子（体育会員）

山田修裕（記録係）・山下輝芳（HP係）

写真担当：杉本昌大・堀江匠・木村克也

陸上競技部 HP <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/2360/>

蒼穹ニュース HP <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/2360/soukyu.htm>

陸上競技部記録 HP <http://homepage2.nifty.com/bridge-as/>

関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>

メールアドレス tak.sesei.jk6esj@siren.ocn.ne.jp（瀬々井）